

地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホーム多々良の里

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を実現するために、少しずつではあるが、地域推進会議等を通じてホームの取組み、内容の紹介をしている。	○	分かりやすい新たな理念を職員間で作っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	問題解決の取り組みにも、常に理念を基にと話し合っている。	○	業務優先にならないよう、特に新しい職員に理解してもらおう。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	まだ充分とはいえないが、交流の機会を増やしていきたい。		ホームの行事案内をし、隣近所への働きかけを工夫していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などの時に、積極的に挨拶しながら話しかけるよう努めている。	○	都合の良い時間など、具体的な内容で声かけしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域推進会議のメンバーの方を通じて行事等を案内している。	○	近くの幼稚園 運動会への参加、子供会の古新聞回収も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域推進会議や職員の知り合いでも、困ったことの情報を通してもらうようにしている。	○	職員にも職業を通じて地域貢献の理解を深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミニカンファレンスで、4～5項目ずつ読み上げを行った。	○	全員が全項目に目を通してもらうよう働きかけたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者のより多くの意見が、聞けるよう働きかけている。地域の方も都合つかない場合、代理の方をたて、参加していただいている。	○	利用者の生の声を必ず発表していただいて地域の方が真剣に耳を傾けてくださるので、続行していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新時等出向いた時は、パンフレット等も必ず見たり、持ち帰ったりしている。	○	質問等あった時は、積極的に連絡を取るようになっていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後援会には参加している。回覧物も目を通してしている。	○	実際にまだ行っていないが、必要な方がいないか注意を払っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あつてはならないという認識の下、防止に努めている。	○	言葉遣いにも気をつけたい。利用者の発せられない声にも見逃さないように接したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に書類を持ち帰って読んでいただく時間を取っている。話しやすい雰囲気作りに努めている。	○ 遠慮している面がないか注意していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉でうまく表せない利用者ほど観察に充分時間をとるよう話をしている。	○ 声かけの工夫を常に行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族へのポケット入れに気づいた事をメモしておき、当日の勤務者が伝えている。	○ 写真なども続行していく。暮らしぶりを伝えていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱もあるが、本音を言って頂けるよう声かけの工夫をしている。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、主任・副主任を通じて意見を聞くよう努めている。	○ 個人面接も年1回は行うようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	相方の体調管理が最も大切だと話している。希望休を取り入れ、急な変更時は、お互い助け合っている。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等があった場合、必ず挨拶して分かっていたらいい。	○ レベルに応じた言葉かけの工夫をしていく。新職員の紹介は家族へもしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職年数に応じて少しずつ皆が研修を受けて意欲を持って仕事ができるように考えている。	○ 研修報告や資料の回覧をしているが、職場で取り入れていきたい事を中心に月1回程の勉強会を設けたいと思っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空きがあった時は、連絡し、受けた時にも仕事上の話をしている。交換研修はずっと交代で職員が参加している。	○ 困難事例を話し合える場を作れたらと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時々食事会の計画あり。昨年4月には一泊旅行を実施。	○ 一部より誕生日にお花のプレゼント等の提案あり。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	隣に住んでいるため、すぐ連絡も取れ、また、夜勤帯にも必ず声かけしていただいている。	○ 勉強していく姿勢が大切だと思う。各々の目標を個人面接の時にでも聞いて、援助もしていきたいと考えている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずご本人の気持ちを大切に考え、可能であれば、ぜひ見学に…と話している。	○ なるべく多く、ご本人と話す時間を持つようにしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人をとりまく環境を早く理解して、問題点を整理するよう努めている。	○ 金銭面に関することも充分説明していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の方の理解度も確かめ、介護保険全体から考えられるよう、市のパンフレットも活用している。	○	認知症に対する理解も、十分説明していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何回でもいらしていただき、体験も可能だと伝えている。	○	ご本人の性格や、遠くにいる家族・時間的に余裕の少ない家族にも配慮していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同等の立場で傾聴し、昔の事柄を教えていただいたり、冗談を言い合ったりしているが、言葉使いに注意している。	○	職員は常に謙虚な気持ちで、尊厳を守っていく努力をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者本位の意味を家族と一緒に考えていくよう取り組んでいる。	○	困難なことが起こった場合、報告をしながら、ご家族の意見も求めていくようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症が進行して関係がくずれていく対応策を話し合っている。	○	接する時間の少なくなった家族への理解を促し、ご本人の穏やかな生活を目標に考えていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話などから聞き出す努力をし、電話してみますか？と声かけしてみることもあり。	○	家族から見て、異なる場合もあるが、利用者本位の立場から、慎重に取り組んでいく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症や性格の為、時に不穏になる事あり。ゆっくり話を聞いてあげ、話し合いでさりげなく席替えしたりする事もあり。	○	説得せず、納得の言葉かけに努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙交換や、職員の会食会に、その家族のお店を利用することもあり。こちら側も何かの役に立てればと考えている。	○	行事案内をしたり、ボランティア依頼等できそうな方も居るのでは…と考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式をもとにした、個人ノートがある。その活用に努力していきたい。	○	利用者が入れ替わったり、新人職員になった場合も、スムーズに引き継ぎができるように努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代順になっている生活歴の表を入所時お渡しして、多く記入していただくよう話している。	○	最もよく解かっているつれあいの方が亡くなっている場合もあり、他からの把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランの担当者を中心に、できること探しや個別リハに努めている。	○	少しでも退屈な時間がなくなるように出来ればと考えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン担当者は、他の職員にも意見を聞いて作るようにしている。家族を呼んでのプラン会議は出来ていないが、要望ありましたら…の声かけはしている。	○	プランは全員が同じに支援できるような書き方であるよう勉強していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎に(特別な変化ない限り)見直している。問題が出てきた場合は、随時家族と話し合っている。	○	評価、反省について、全員の話し合いが充分もてればと感じている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録となるよう、また短い文章で正しく伝わるような書き方と新人の方にも話している。	○	要点を分かりやすく伝えられる記録の書き方を皆で勉強していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のデイサービスを利用している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる踊り、手品等の訪問時は、デイの方と一緒に楽しんでいる程度である。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネの会議等は、ほとんど出席していて、他のケアマネからの情報を得られるようにしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の講演会には積極的に参加している。	○	電話や調査等で出会う機会を利用して、なるべく交流に努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医2人で、半数の方を。他家族受診か、職員対応で行っていて、ホーム内の様子を充分伝えるよう努めている。	○	利用者にとって、より良い医療が受けられる目標に向かって、医者とのかかり方を検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>医者とのかかわりを職員誰もが経験していくことで、認知症についての勉強の意欲に繋がると考えている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>便秘に関しての取り組み続行し、個々との対応最善策を見つけていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>ホームでの日常の様子、問題点を早くに伝えることで、レベル低下を防ごうと思う。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>個人ノートに必ず話し合いの記録をとり、医者との連絡方法も確認し共有しているが、新人の人にも徹底していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ターミナル・ケアの勉強会をしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>利用者本位、家族への思いやりをもって、話し合いをするように努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	何事にも尊厳を守ることを第一に考え、言葉遣いにも気を付けている。	○ プライバシーを守ること、個人情報の取り扱いについて確認していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まず傾聴に心がけ、各々の方に合わせた話し方をし、自らの言葉を待つよう心掛けている。	○ 心に寄り添う介護をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心、観察に努め、その人の望みを把握できるよう努めている。	○ 希望をうまく表現できない人への配慮をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	特に女性利用者には、起床後の洗顔、整髪剤、くし等、声かけしながらお渡ししている。	○ 居室でのおしゃれができる環境にも配慮したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー紹介したり、音楽をかけ、職員と一緒に楽しむよう努めている。食事準備でのお手伝いして頂く量は少ない。	○ 少しずつでも関わりを多く出来るような段取りの工夫をしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事の日等は、好みのものを提供している。酒・タバコは、出していない。	○ 気付かずにいた本人の楽しみを見つけてあげられるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗時は、特にさりげなく対応している。排泄表の記録と観察に心掛けている。	○	医療的な事も勉強し合い、苦痛を少なくすることを目標に、各々の支援の仕方を考えていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別対応は出来ていない。一日おきに午前中入浴。無理強いはせず、翌日に変更することあり。		入浴拒否のため清潔保持できない人の対応を話し合っている。職員サイド的な考えになっていないか話し合っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の眠りの様子も申し送りしている。昼夜のリズムが保てるよう配慮し、昼寝も1時間以内を心掛けている。	○	クーラーの温度設定、衣類、寝具の調節、安楽な体位も考えていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の情報を多く持ち、ゆったりした会話を心掛けている。	○	動きや発語が少なくなっている人への声かけを工夫していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方は、財布を身につけていただいている。満足感を大切に考え、預けている方には、不安ないように声かけしている。	○	しまい忘れて「無くなった…」と訴える利用者に対しても、穏やかに対応していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は外気を吸って頂くように心掛けている。	○	玄関口の利用を検討中。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物に同乗して出掛けたり、外出行事の計画も立てている。ご家族の協力をお願いすることもあり。	○	個別や数人対応のプランも立て、多くしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時利用していただく。年賀状は、利用者・職員共に一言書いている。ご家族からの電話もいつでもどうぞと話してあり。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	心待ちにしている事を伝え、ゆっくり面会して頂けるよう心掛けている。	○	なるべく多くの情報を得て、支援時の話題にしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。転倒防止のため、家族了解のもと、柵固定や鈴等付けている。	○	長時間車いすに座ることの無いようしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵かけも最小限にしている。		外に出たい人にも、事務所などからの応援を頼み応じていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全に関する申し送りもきちんとするよう気をつけている。センサーマット2枚購入。	○	干渉されたくないという、自然な利用者の気持ちも忘れないよう、さりげなく見守りたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者のレベルの把握をし、職員間で相談している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告もすぐ回覧するよう努めている。原因を考え、安全対策を話し合っている。	○	新職員への指導時にも必ず伝えていく。家族への説明もきちんとしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すぐ目につく電話代の上に急変時の対応表が貼ってあり、消防署立会いと自主訓練の年2回を毎年行っている。	○	職員全員が実習できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震・水害時の具体的避難訓練は行われていない。		地域の人々と一緒に確認していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	施設での様子を話し、ご家族の思い・助言を引き出すよう努めている。	○	自由な暮らしの支援とは…を話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各々に応じて、バイタルチェックの回数を決めている。体調の把握に努め、申し送りを漏れなくするようにしている。	○	バイタル備考欄を活用し、記録の重複を避け、大切なことは把握しやすいようにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容もその都度、職員全員目を通して。観察での気付きは報告し合っている。	○	薬剤師さんとの勉強会に参加していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表により、内服・座薬・浣腸を利用。予防に重点を置き、食べ物(プルーン・芋・ヨーグルト等)の工夫。体操も個別リハビリ表を作成している。	○	意欲的に無理なく体を動かせる体操(水戸黄門体操)を定着化したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	小さく柔らかい歯ブラシを使用し、汚れが残っていないか確認している。	○	義歯装着についても、早期に諦めてしまうことなく、専門医と相談していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の飲水時、すぐに片付けず、量の確認している。カロリーに気をつけている人は、ご飯の量も調節している。	○	H21. 7 車いす用の体重計購入し、全員の体重の変化を検討していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いは励行している。通達にも全員回覧して注意点を確認している。	○	新型インフルエンザ情報にも注意していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理担当者は、毎日まな板などの漂白をしたり、冷蔵庫掃除も行っている。食材の点検もしている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターを置き、季節の花を楽しめるようにしている。椅子を並べて外気浴をしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、明るさ、音楽を流したりしている。換気に気をつけ、常に温度・湿度を配慮している。	○	クーラー設定温度等、まめに変えていく必要あり。行事担当者が壁面に季節感を取り入れている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は、ソファを利用して、自由に会話を楽しめるよう、テーブル配置や席順も変えたりしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族面接時は、居室でゆっくり過ごしていただけるようにしている。テレビ・ラジオ等でも楽しんでいる。	○	レイアウトや、使いやすさの工夫をしていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の換気は、早番が必ず行うようにしている。温度にも常に気を付けている。	○	尿・便失禁時の臭い対策を工夫していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を出来るだけやっけていただいている。	○	継続したリハビリを行う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	よく観察し、認知症のレベルを把握する。理解することで穏やかな生活を目指している。	○	
	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先への菜園へ、ゴーヤや青じそ等は採りに行く事あり。	○	隣のデイサービスや、リハビリ室利用も多くしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者本位を常に頭に置き、認知症の心の介護が仕事であることを忘れないように、全職員話し合っている。
- ・利用者の貴重な1日1日の過ごし方を、職員が託されているという自覚のもと、観察を十分行い、情報の共有に努めている。
- ・基本である体調管理に努め、バランス良い食事、ドクターとの連携により服薬、生活指導の指示を仰ぎ、実行していく。